

求められる次のエコ住宅

好調なZEHビルダー登録 地域型には基準緩和措置

ZEH提案の
手法を学ぶ年に



エコワークス社長
小山貴史さん

ZEHに関して言えば、昨年は予想以上の盛り上がりを見せたことを歓迎している。昨年をひとくくりで言えば「どうすればZEHを実現できるかを勉強した年」だった。この経験を踏まえ今年は「どうやってZEHを(顧客に)提案するか、その手法を学ぶ年」にしてほしい。

太陽光発電も買い取り価格が下がったが、長い目で見れば大きな経済的なメリットがある。

温暖地の例で言えば、(HEAT20提唱の断熱仕様の)G1レベルの断熱性能にするのに掛かる追加費用は10年で回収できる。それは窓など建材、設備の高性能化が大きく影響している。

こうしたメリットを試算して示し、設備機器で固めた“メカメカZEH”に比べ、工務店が提供する住宅がどれだけ無駄がないかを提案してほしい。

吐き出し窓から冬の日射しが射し込む縁側のある家



伝統的な「竹小舞・両面塗り」を「木小舞・土片面塗り」に変更し、必要な断熱材を充填する工法(提供:トヨタヤスシ建築設計事務所)

2016年4月に施行された建築物省エネ法では、2017年4月から2000㎡以上の非住宅で適合義務化となり、以後段階的に省エネ規制が強化され2020年からは一般住宅でも義務化される予定。さらに高い環境性能を求めるZEHビルダーへの登録も4206件(2016年12月22日現在)と工務店の家づくりは大きく省エネ化に舵を切りつつある。

一方で、省エネ基準を満たすことが困難な地域の気候風土に対応した住宅への配慮として、外皮基準が一部適用除外となるなどの緩和措置が設けられた。省エネ基準の義務化にあたっては多くの技術者が一層のスキルアップを求められる一方、地域型省エネ住宅でも一次エネルギー消費量を制限することに役立つパッシブデザインを取り入れた家づくりに力点が置かれることになりそうだ。

国は地域型の住宅に対する省エネ規制の緩和措置を進めるため2016年3月に「気候風土適応住宅・省エネガイドライン」を発表した。住宅建設を所管する自治体がガイドラインを参考に地域独自に認定指針を策定、指針に沿った住宅の建設を建築主の申請に基づき「気候風土適応住宅」として認定する(11面の図)。認定に当たっては、今後、地域ごとに環境工学の専門家と地元設計者、地元実務者(大工・工務店)による有識者懇談会が開催される見込み。

日本建築士会連合会・環境部会の中村勉部会長(東京建築士会会長)は「建築物省エネ法の施行で住宅の省エネ性能が高まることについては歓迎する」としながら、単に省エネ性を高めるために窓を小さくする「ポツ窓」の家が日本の主流になるのでは」と危惧。「和室の続き間、南側に一間の広い廊下があり、この陽だまりに近所の人が

気候風土適 注目される

訪れてお茶を飲んだりする豊かな景が、ひとつの法律のおかげでなるとはあってはならない」とい。地域型省エネ住宅の先導的な取り組みを国も補助事業として支援する。2016年からサステナブル建築先導事業に「気候風土適応型」を設け11月には第1回案件として3件が選ばれた。



- 方法① 国のガイドライン
- 方法② 地域独自に策定しもとに認定
- 方法③ 他地域の認定指針

ついにリリース!!

高性能デザイナーズ規格住宅
アーキテクチャル・
デザイナーズ・マーケット

Architectural
Designers
Market

商品発表会
開催決定!

モデル見学会

モデルハウスやオリジナル部材をご覧いただき、商品内容やマーケティング戦略などをご紹介します。

1/19(木)・1/25(水)

開催場所:高松(香川県)
時間:13時~22時 ※情報交換会含む

オール・プラス・ハウス
R+house
「利益確保